

Library Navigator

立命館大学 図書館だより
ライブラリーナビゲーター

ISSN 1345-3343

Vol. 130

Fall/Winter 2022



図書館イメージキャラクター：よむりす

〔図書館副館長からのメッセージ〕

今求められる“図書館活用力”

大西 淳

立命館大学図書館副館長 情報理工学部教授

〔特集1〕

「ひとり図書館時間」 どう使ってる？

〔特集2〕

2021年度図書館利用実態 アンケート結果報告

〔特集3〕

便利に使いこなそう、 電子リソース

今求められる“図書館活用力”

大西 淳

図書館副館長 情報理工学部教授



皆さんは、授業やレポート作成などで学術情報を調べなければならないことがあると思いますが、どうやって調べていますか？ Googleサーチといった検索エンジンでweb上の情報を調べて済ます人もいますが、web上の情報は手軽に検索できる一方、誤った情報が含まれていたり、検索結果が多すぎて扱いに困ったりすることがあって、適切な学術情報を見つけ出せないことがあります。

本学の図書館には、専門的な図書、学術雑誌、辞書、さらにはオンラインで活用できる電子書籍や幅広い分野の各種データベースが揃っています。大学図書館は知の宝庫です。学術情報を調べる際は、図書館を使いましょう。

でも、どうやって調べたらいいのかわからない人もいるかもしれません。そのような人へのお薦めが図書館のレファレンスカウンターです。レファレンスカウンターでは、図書館職員が学術情報の探し方やデータベース利用のお手伝いをしてくれます。

また、「コロナで図書館まで行きにくいなあ」とか、「図書館って敷居が高いなあ」と思う人もいるかもしれません。そのような人は、「大学図書館ホームページ」>「学生支援」>「RIS（情報検索の手引き）」とたどってみてください。図書・雑誌の探し方、論文の探し方、新聞記事の探し方といった学術情報の調べ方はもちろん、レポート作成のコツや引用・参考文献の書き方まで有用な情報が満載です。

私も自身の論文の執筆や他人の論文の査読では図書館を活用しています。論文では、新規性・独創性、有用性、正確性、理解容易性、分野適合性が問われます。新規性・独創性を確認するには、世の中の既発表の論文では扱われていない研究内容であるかどうかを確認する必要がありますが、そのために活用するのが論文データベースです。私の研究分野ではアメリカの電気電子学会が提供しているデータベース“IEEE Xplore”などを用いると、キーワード検索で関連する論文を検索できます。検索結果から論文概要をざっと読めば、関連が深い論文かどうかを知ることができ、関連が深そうな場合は論文全体をダウンロードして、新規性・独創性を確認します。また、関連が深い論文から、世の中では何が解決できていて、何が未解決で解決が望まれているかを知ることができるので、有用性を確認することができます。

もちろん、国内外の会議に参加して、発表を聴講しても良いのですが、授業期間中はなかなか出張できないことや、あらゆる会議を網羅して参加できないことから、図書館を活用することになります。みなさんも、ぜひ図書館を活用してレポート作成や研究に役立ててください。

最後に、私からのお薦めの書籍を紹介します。活字が嫌いな人でも、写真が多いので楽しめると思います。RUNNERS（立命館蔵書検索システム）で検索して、どの図書館に配架されているか調べてみてください。自分の所属キャンパスに無ければ予約・取り寄せが可能です。



[セオドア・グレイ著、武井摩利訳](#)

[「世界で一番美しい元素図鑑（The Elements）」](#)

[（創元社、2010年発行）](#)



コロナ禍といわれて早2年半。少しずつ日常が戻り始めたといわれますが、コロナ禍を経験する前とまったく同様かといえば、必ずしもそうではありません。

学生生活においては、対面授業とメディア授業のハイブリッド形式といったこれまでになかった授業形態を経験し、ひとりで過ごすちょっとした時間も増えたようです。

本大学図書館で今の大学生が過ごす日常に目をむけてみました。立命館の学生はどのようにひとり時間を過ごしているのでしょうか。

2022年6月に実施したアンケート結果から、これはと思う使い方について紹介していきます！

「ひとり図書館時間」に関するアンケート

衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスに所属する学部学生にアンケートを行い、のべ137件の回答を得ました。

問い

図書館をひとりで使うときってどんなとき？

定期テストの勉強、卒業論文執筆、授業の課題以外でどう使っているのか教えてください！

アンケート結果

順位	ひとり時間の使い方	回答人数
1 位	空き時間で作業	28 人
2 位	読書（紙の本）	22 人
3 位	思考の整理・スケジュールを組む	18 人
4 位	就職活動や入試、資格試験の勉強	18 人
5 位	ふらっと書架の間を探訪する	16 人
6 位	ぼーっとする（何もしない）	11 人
7 位	スマホチェック	9 人
8 位	趣味を極める	5 人
9 位	情報のアップデート	2 人
10 位	読書（電子書籍）	2 人
	その他：次に借りる本を決めるため、映画鑑賞、仮眠、文章執筆（文章投稿サイトに投稿するもの）など	6 人

1 位

空き時間で作業

多忙な私は効率重視



■ 回答人数：28 人



授業、サークルやアルバイトでいつもバタバタしています。そんな忙しい時間で空き時間ができた時は、図書館で授業の課題に着手したり、レジュメ作りを進めたり、細々とたまるタスクをこなします。図書館は席数も多く静かなので、短時間でも集中して取り組むことができます。空きコマに気軽に作業できるベストスポットです。

2 位

読書（紙の本）

本と私をささげるものは
なにもない



■ 回答人数：22 人



「近頃の大学生はあまり本を読まない」とよく耳にしますが、私は読書が大好きです。気が向いた時にふらっと図書館に立ち寄り、読みたい本を選んで読んでいます。読書することで色んな言葉や世界に出会うことができます。そこから想像を膨らませたり、自分なりに考えたりするのがたまらなく楽しいです。電子書籍もいいですが、紙の本は手触りや匂い、ページをめくる音のひとつひとつが心地よいので私は紙派です。

3位

思考の整理・スケジュールを組む

目標管理は入念に



回答人数：18人



友達との旅行の計画、サークル運営のこと、これから先の自分自身のプランなど。普段はぼんやり頭の片隅に描いては、なんとなくやむやにしているけれど、新学期の開始に合わせて自分がやるべきこと、やりたいことを丁寧に洗い出します。計画を立てたり、言葉にならないような思いを具体的に整理していく時は、一人で集中できる席に座るようにしています。人がそんなに通らないのでとても集中できます。

4位

就職活動や入試、資格試験の勉強

回答人数：17人

5位

ふらっと書架の間を探訪する

偶然の出会いを求めて



回答人数：16人



「もしかしたら今の自分に刺激を与えてくれる1冊があるかもしれない。」そんなことをぼんやりと考えながら、館内をのんびり歩くことがあります。本が目に入っているようで入っていない時もありますが、それでも歩いていると「あ、この本なんだろう?」と、ふと目に留まる瞬間が訪れます。何かに悩んだり、やる気が起きなかったり、行き詰まった時に図書館へ行くと、本との偶然の出会いを通して自分の心が見えてくることもあります。

6位

ぼーっとする(何もしない)

サードプレイスでくつろぐ



回答人数：11人



対面授業とオンライン授業が続いてやっと一息。授業で、たくさんの人と話したり意見を聞いたりとかかなり疲れたので、ひとりになって何も考えない時間が自分には必要です。そんな時はこの場所でリフレッシュすると決めています。外の公園や街の景色をしばらく見ていると、すっきりと疲れが癒えてきます。空調もちょうどよく、Wi-Fiも使えるので、自分にとって居心地のいい場所といえます。

※図書館に限らず、キャンパス内はWi-Fiを利用いただけます

7位

スマホチェック

回答人数：9人

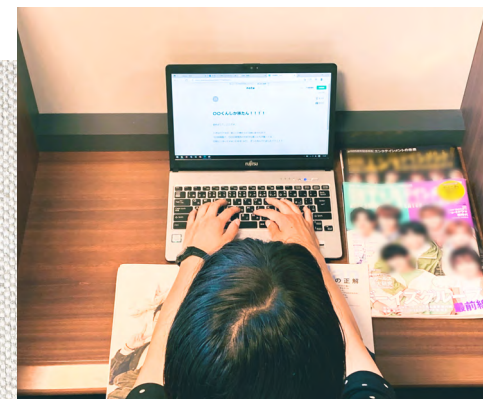
8位

趣味を極める

自己の世界に没頭する

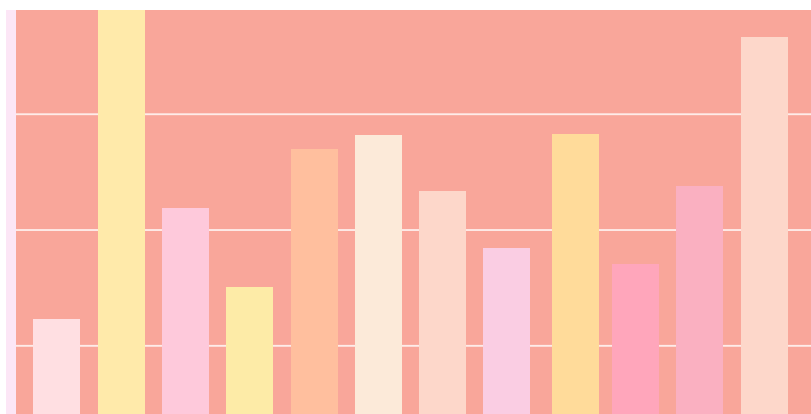


回答人数：5人



自分の好きなことをトコトン突き詰めるために図書館を利用しています。雑誌のバックナンバーを読み漁ったり、関連する書籍を読んだりする中で、自分が知らなかった推しの情報をゲットできた時の喜びは入ります。また閲覧室でパソコンを使って、推しについて考察したり情報発信もしています。今日も図書館のあの場所で、自分の大好きな世界に浸っています。

2021年度 図書館利用実態 アンケート結果報告



たくさんのご協力をありがとうございました。
アンケート結果及び自由記述コメントに対する図書館の取り組みについて以下ご報告します。

対象者：全学部学生、全大学院学生（約34,500人）

実施期間：2022年1月7日～1月28日

回答者数：615名

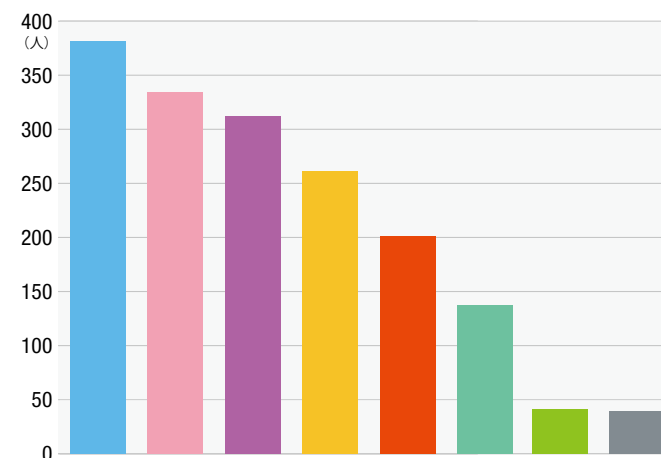
キャンパス別回答者数：衣笠 323名、BKC 178名、OIC 110名、朱雀 4名

Part 1

DATA 2021

アンケート18項目のうち、図書館の利用に関する項目を一部抜粋して報告します。

図書館を利用する目的は？（複数回答）



コメント

図書館の利用目的は資料活用、情報収集、研究・予復習、試験準備の順となりました。大学図書館ですので、それぞれの利用者が日々の学部・研究科での学びを深めるために利用していることがわかります。

資料活用	381人	62.0%
情報収集	334人	54.3%
研究・予復習	312人	50.7%
試験準備	261人	42.4%
読書	201人	32.7%
休憩・リラクセス	137人	22.3%
ディスカッション・ミーティング	41人	6.7%
その他	39人	6.3%

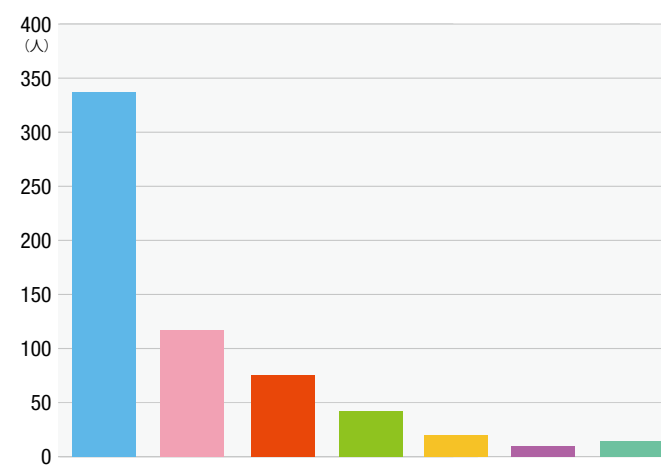
それぞれの図書資料をどこで利用しているか教えてください

	通学途中	自宅・下宿	図書館内 閲覧室	びあら	教室・研究室	(学部棟にある) ラーニング commons	使わない
図書資料 (紙媒体)	5.0%	42.1%	39.8%	2.1%	6.5%	0.2%	4.2%
雑誌 (紙媒体)	0.5%	9.8%	38.9%	1.8%	2.9%	0.0%	46.2%
E-Book	0.7%	28.6%	5.9%	2.0%	3.7%	0.5%	58.7%
E-Journal	0.8%	30.9%	5.7%	1.8%	5.5%	0.7%	54.6%
データベース	1.3%	49.9%	11.1%	2.4%	7.0%	0.8%	27.5%

コメント

紙媒体の図書や雑誌は図書館内での利用を中心に、貸出手续をして館外でも利用している一方、電子資料であるE-Book、E-Journal、データベースは自宅・下宿で利用するなどコロナ禍での学習スタイルを反映した結果となりました。

図書館所蔵の紙媒体資料・電子資料・データベースを利用する際に最も役立ったツールおよびサービスを教えてください（択一）



コメント

図書館資料の利用にはRUNNERS OPACやRUNNERS Discovery ServiceといったホームページのTOPにある検索窓が活用されています。図書館来館時には書架で資料を探すと類似分野の図書に思わぬ資料に出会えることがあるので、ぜひ書架を歩いてみてください。また図書館では資料検索のお手伝いをする学生ライブラリースタッフやレファレンスサービスがありますので、困ったときはご相談ください。

RUNNERS OPAC	337人	54.8%
RUNNERS Discovery Service	117人	19.0%
書架で探す	75人	12.2%
友人や教員に教えてもらう	42人	6.8%
レファレンスサービス	20人	3.3%
学生ライブラリースタッフ	10人	1.6%
その他	14人	2.3%

アンケートの自由記述欄に寄せられた意見について

図書館利用実態アンケートでは、Q18の自由記述欄にも多くの方が記入をしていただいております。記入総数234件のうち内訳は、図書館サービスについて（183件）、図書館の収書や蔵書等について（31件）、図書館には関係しない記述や感想など（20件）、となっていました。今回、多くの方からの関心が集まったものを中心に、FAQ形式で図書館の取り組みや考え方についてご紹介します。

Q1 開館スケジュール（開館日程および時間）はどのように決めていますか？



A ・ 図書館は、利用者の学術資料へのアクセス機会を可能な限り増やすため、年間の開館日数と授業日の開館時間を可能な限り増やすことを基本として、学事日程、蔵書の整理、施設設備の点検や工事の必要性等を踏まえて開館スケジュールを決めています。

現在、平井嘉一郎記念図書館（衣笠）、メディアセンター・メディアライブラリー（BKC）、OICライブラリーの開講期間の開館時間は平日午前8時30分～午後10時、土曜日・日曜日は午前10時～午後5時となっています。これは関関同といった他大学の開館状況も同様となっています。利用者からは、24時間365日の開館や授業日以外の開館時間延長を希望する声がありますが、大学構内に立地していることや利用者の少ない時期の開館に要するコスト等から希望に応えることができていません。

Q2 立命館大学図書館はどのような考え方で資料を収集していますか？



A ・ 立命館大学図書館は、主に大学の学生・院生および教職員の教育、研究ならびに学習に必要な学術資料の収集・整理・保存し、利用者へ提供する、大学教育・研究専門の図書館です。日々膨大な数の学術資料が世界中で出版されており、これら全てを網羅的に収集することは困難であることから、立命館大学図書館として学術資料を収集する際の基本的な考え方を定めた「[図書館資料収集の基本方針と収書基準](#)」に基づき、図書館の蔵書整備に努めています。また、近年では、電子的に出版される学術資料の増加傾向も顕著であり、電子書籍や電子ジャーナルについても積極的に収集しています。学術雑誌、データベース等については、教員の協力も得て専門的な視点から資料を選定しています。

図書館で所蔵してほしい資料があれば、[MyLibrary](#)の「利用者サービス」メニューの「図書購入申込（学習用）」から申込むことができますが、収書基準では漫画やフィクション単行書（小説）などは収集しないとしているため、希望に添えないことがあります。

図書館には、自大学の教育や研究に必要な学術資料を専ら収集する大学図書館のほか、自治体等が運営する社会教育を目的とした公共図書館、漫画・建築・文化といった専門的な分野の資料を収集している専門図書館など、様々な種類の図書館があります。多くの図書館ではオンラインで蔵書カタログを公開しているので、目的に応じて図書館を使い分けて利用してください。

Q3 図書館の設備（施設、設備、什器、備品など）の改修について教えてください



A ・ 図書館等の施設は、時間経過や利用により、汚損、破損、機能も低下します。また、学習環境や学術資料の変化により、情報やネットワーク等の機器更新や技術革新に伴う機能拡充も必要になります。大学としては、中長期的な計画に基づいて施設・設備改修をおこなっています。近年、OICライブラリー（2015年開設）や平井嘉一郎記念図書館（2016年開設）よりも相対的に古いBKCのメディアセンター（1994年開設）やメディアライブラリー（1998年開設）で環境改善を求める声が多く出されています。この声を踏まえて、メディアセンターでは、汚損の酷いカーペットの張替え、閲覧席の電源コンセント増設、メディアライブラリーでは老朽化した椅子の更新を進めています。また、コロナ禍を受けて、全ての図書館で無線LAN環境の整備をおこないました。

Q4 図書館の空調管理はどのようにされていますか？



A ・ 図書館は教室などの施設と同様、キャンパス全体の空調運転スケジュールにそって冷暖房等の温度設定、空調管理を行っています。しかし、例えば5月上旬など通常は冷房運転しない時期に暑くなる時があります。そのような時は臨時に冷房運転をするなどの手配を行っています。アンケートでも、図書館内の空調について、暑い・寒いという声がありました。エリアごとに空調設定温度の変更を行いました、同じ室内でも空調の位置や日当たりの具合によって温度差が生じますし、人によっても感じ方が違う場合も見受けられますので、席を移動して環境を変えてみるなどの工夫をお願いいたします。そのうえでなお解消されない場合には、各図書館サービスカウンターにお申し出ください。

Q5 図書館内で飲食はできますか？



A ・ アンケートでは「図書館ですずっと勉強をし続けたいので、館内で食事できる場所を設けて欲しい」などの意見がありました。図書館での食事は、図書資料が汚損する恐れが高くなったり、匂いが他の利用者に影響を与えるなど、様々な問題が起こります。そのため、以前は図書館内では飲料をとることも含めて全面的に禁止していました。しかし、ペットボトルなど蓋付容器で飲料をとることについては、図書資料の汚損や匂いの発生などは考えにくいことから、近年では可としています。図書館のあるキャンパス構内には生協などの食堂施設もあることから、食事の際はそちららを利用していただき、図書館では勉強に専念してください。

Q6 新型コロナウイルス感染症に関わる図書館サービスについて教えてください



A ・ 現在、図書館の対策は、大学が定める「新型コロナウイルス感染拡大に対する立命館大学の行動指針（BCP）」で定めるBCP活動レベルに沿う形で実施しています。大学では、大学構内でのマスクの着用や体温測定、手指の消毒などの基本的な感染拡大防止についてご協力いただいています。図書館では、BCP活動レベルに応じて、学外者の入館・使用できる座席・イベントなどを制限や飛沫防止パネルを設置、「びあら」など一部エリアでの飲み物を禁止するなどの対応を行います。またコロナ禍における図書館サービスとしてご利用いただいていた図書の郵送サービスは、2022年度はBCP活動レベルが3～5の場合に実施します。図書館の新型コロナウイルス感染症への対応の詳細については図書館ホームページをご覧ください。

Q7 マナーの悪い利用者がいるのですが



A ・ 図書館は立命館大学の全構成員が学習・研究目的で利用する共有の施設です。施設ごとに守るべきルールは異なりますが、図書館では、利用者の皆さんが学習や研究に集中して取り組むことができるよう、びあらやセミナールーム以外では閲覧室を含め発話を制限しています。利用者のみなさん一人一人が意識あい、静粛な環境をつくりあげることが重要です。その上で、利用者の誰かが、利用環境を悪化させているような場面に遭遇した場合には、注意をし合ったり、図書館スタッフにお申し出いただくなどの利用環境を守る行動が求められます。

図書館では、これからも様々な機会を通じて図書館サービスや蔵書、施設面での改善に努めます。

🔍 電子書籍（図書・雑誌）

図書 >

雑誌・学術論文 >

図書館が契約している電子書籍は、学内ネットワーク（RAINBOW）に接続したパソコンなどの情報機器から、いつでも閲覧可能です。書店や出版社によってプラットフォームが異なります。「電子リソース一覧」の「[図書](#)」および「[雑誌・学術論文](#)」カテゴリにプラットフォームの一覧がある他、「[電子書籍検索](#)」画面を使えば、これらのプラットフォームにある購入済み電子書籍を一

括して検索できます。

プラットフォームによって方法は異なりますが、多くの場合は、検索された資料をPDFなどの形式で、自分の情報機器にダウンロードすることができます。ダウンロードしたものは、ネットワークに接続しなくても、その情報機器で読むことができます。

🔍 雑誌記事、論文

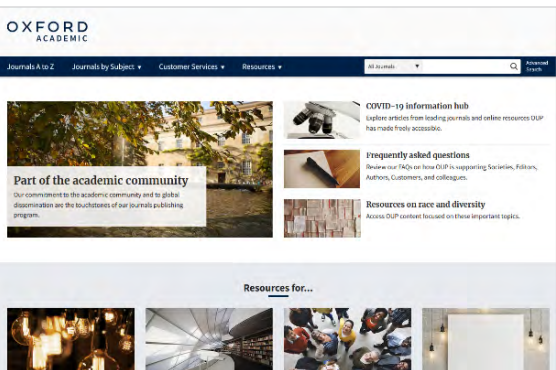
雑誌・学術論文 >

図書館では、雑誌の記事や論文のデータベース等を数多く契約しています。オープンリソースやフリーコンテンツを含めると相当な数になりますので、便宜的に以下の4つに分類して説明します。

学術出版社ジャーナルパッケージ

学術雑誌を発行する出版社の中には、その出版社が発行する電子ジャーナルへのアクセス権をまとめて販売しているケースが多くあります。本学では[Elsevier](#)※、[Wiley](#)※、[Springer](#)※、[Taylor & Francis](#)※、[ケンブリッジ大学出版](#)※、[オックスフォード大学出版](#)※などの大手出版社のジャーナルパッケージを契約しています。

これらのジャーナルパッケージの画面の多くには検索窓が設けられており、キーワードを入力すれば、そのパッケージに含まれているジャーナルの記事や論文の中から、関連するものを探すことができます。



<https://academic.oup.com/journals>

学協会ポータルサイト

学会などの学術団体の中には、[ACM](#)※や[AAAS](#)※に代表される電子ジャーナル等の出版事業を行っているところがあります。そのような団体の中にも、学術出版社と同様に、その団体が発行する

電子ジャーナルへのアクセス権をまとめて販売しているケースがあります。

学協会のサイトでは、ジャーナルだけではなく、その団体が主催するシンポジウムやフォーラムなどの学術的な集会の発表原稿や配布資料（「会議録」または「プロシーディング」といいます）、特定の領域における業界標準的な規則や規格、その他の技術的情報などが公開されている場合もあります。

テーマ別アグリゲーター

[EBSCO](#)※、[ProQuest](#)※などの出版社は、他の出版社や学術団体が発行するジャーナルなどから、特定のテーマに沿ってコンテンツを収集し、それをまとめてパッケージとして販売しています。こうした出版社やサービスを「アグリゲーター」と呼んでいます。

個々の出版社や学術団体のジャーナルパッケージから探すよりも効率的にコンテンツを収集できますが、最新号は読めない、発行後1年間は読めないといった制約がある場合もあるので注意が必要です。

書誌、索引データベース、その他

書誌データベースや索引データベースなどは、本文がすぐにオンラインで読めるかどうかは別にして、どこかに存在するかもしれない文献を探すときに使います。日本国内で発表された学術論文であれば[CiNii Research](#)、海外の主要な学術ジャーナルに掲載された論文であれば[Web of Science](#)※がよく使われます。その他、学術雑誌以外の一般雑誌の記事も含めて検索する場合は[MAGAZINE PLUS](#)※や[雑誌記事索引集成データベース](#)※などが使われます。

一般的にこれらのデータベースには本文は含まれていませんが、本文がオープンになっているものや、図書館の契約パッケージに含まれているのであれば、オンラインですぐに閲覧できる場合もあります。すぐに閲覧できないものを入手したい場合は、各図書館のレファレンスカウンターに相談してください。

便利に使いこなそう、 電子リソース



本学図書館では、雑誌論文や新聞記事の検索、辞書・事典、他にも専門分野別など100を超えるデータベースが利用できます。インターネット上にある情報は出所が明確ではないものもありますが、データベースに収録されている情報は信頼性が高いことが特徴です。様々なデータベースを使いこなすことは、たくさんの情報の中から、効率よく必要な情報を入手することにつながります。図書館ホームページの「データベース」のタブを選択し、使いたいデータベースを絞り込んでみましょう。

電子リソース（データベースなど）一覧 >

具体的なデータベースをいくつか紹介します。

* 契約しているタイトルは2022年9月現在のものです（将来的には契約タイトルを見直す可能性があります）。
* [VPN](#)、[学認](#)（電子リソース一覧にあるタイトルの説明文に利用方法が記載されています）で学外から接続できるタイトルは※印を記載

🔍 新聞記事・ニュース

新聞・ニュース ➤

[朝日新聞](#)[※]、[毎日新聞](#)[※]、[読売新聞](#)[※]、[日本経済新聞](#)[※]などの主要な新聞については、新聞記事データベースがあり、朝日新聞、毎日新聞は創刊号から、読売新聞は明治期から、日本経済新聞は過去30年の記事を、キーワードや分野分類などで検索できます。電子リソース一覧の「[新聞記事・ニュース](#)」カテゴリーには、一般紙を中心に、新聞社が提供する、カレントを含むデータベースをリストアップしています。カレントを含まないものについては、「[歴史的資料](#)」カテゴリーをご覧ください。

業界紙のデータベースやビジネス記事が中心のデータベースについては「[企業・ビジネス情報](#)」カテゴリーに分類しています。



日経テレコン21（日本経済新聞データベース）

🔍 事典・辞書

事典・辞書 ➤

電子リソース一覧で「[事典・辞書](#)」を選ぶと、事典や辞書のデータベース一覧が表示されます。一般的な電子書籍とは違い、キーワードによる検索や逆引き、関連語の表示などの機能があります。

[Japan Knowledge](#)[※]は電子リソース一覧に表示される事典・辞書の中で、もっともよく使われるデータベースです。『日本大百科全書（ニッポニカ）』『改訂新版 世界大百科事典』などの百科事典、『デジタル大辞泉』『日本国語大辞典』などの国語辞典、『国史

大辞典』『日本歴史地名大系』『新版 角川日本地名大辞典』『日本人名大辞典（講談社）』『岩波 世界人名大辞典』などの専門的な事典、各種外国語の辞典、『会社四季報（東洋経済新報社）』『日本統計年鑑』『人物叢書（吉川弘文館）』『東洋文庫（平凡社）』など、65種類以上の事典や辞書から横断検索できるので、言葉の意味や事柄について調べる場合に便利です。

🔍 その他（法律・判例、統計、企業・ビジネス）

法令・判例 ➤

法令や判例に関するデータベースは、電子リソース一覧の「[法令・判例](#)」カテゴリーに掲載しています。このうち、日本の法令、判例、判例講釈にアクセスできるもので、図書館が継続的に契約をしているのは[D1-Law](#)、[LEX/DB](#)などがあります。

統計 ➤

民間企業や各種団体から提供される統計資料の中には、それらの企業や団体が独自の統計調査を行ったもの以外に、公的統計にさまざまな分析用の情報を付加して、複数の公的統計量や民間の統計調査結果を横断的に検索しダウンロードできるようにしたり、毎年の統計量を時系列にダウンロードできるようにしたものがあります。「[電子リソース一覧](#)」では、「[統計](#)」カテゴリーに統計関係の

データベースやWebサイトをまとめていますが、企業活動に関する統計については「[企業・ビジネス情報](#)」カテゴリーに分類しています。

企業・ビジネス情報 ➤

日本国内の企業を主に対象とする企業情報データベースとして、図書館では、「[eol 総合企業情報データベース](#)[※]」と「[日経NEEDS（マクロ経済統計/企業経営・株価統計）](#)[※]」を利用者のみなさんに提供しています。また「[Nexis Uni（判例商事データベース）](#)[※]」の「Company Dossier」機能を使うと、特定の海外企業や海外展開している日本企業に関連する企業情報、業界紙の記事などを含むニュース情報、主要役員に関する情報、業界動向、各国の裁判に関する情報、登録されている商標に関する情報などに、アクセスできます。

🔍 機関リポジトリ

機関リポジトリ「R-Cube」 ➤

「リポジトリ」とは貯蔵庫のことで、大学などの研究機関がその学術成果・知的生産物を社会に公開・発信するために、所属する研究者の論文などの資料をデジタル化して集積し、保存したものを「機関リポジトリ」といいます。

本学の機関リポジトリには、本学所属の教員や研究者によって創造された紀要論文や博士論文等の知的生産物を電子化し、保存・公開しています。

図書館ホームページの「資料を探す」から「[機関リポジトリ R-Cube](#)」を選択してください。

